

ミュージアムのまなびサポート

みる しる みつける

つうしてんじしつ
通史展示室

たんけんノート

展示室に入る前に…
まずは、この問題にチャレンジ！

展示室の入口でみなさんを
むかえるお地蔵さま。
実際には、どんな場所に置
かれているのでしょうか？
次のア～ウから選ぼう。

- ア 山の頂上^{ちようじやう}
イ 海の中
ウ 道のわき



答えは14ページの下にあるよ。

まがい われいし じぞう
磨崖 和霊石地蔵 (複製)

みはら さぎしま じぞう ぼさつ
三原市の佐木島にある大きな石にほられた地蔵菩薩で
今から約700年前(鎌倉時代)に作られました。

ページをめくって、展示室の「探検」を始めよう！

みる

展示している物を、
じっくり観察しよう。

しる

昔の道具や、暮らしの
様子を知ろう。

みつける

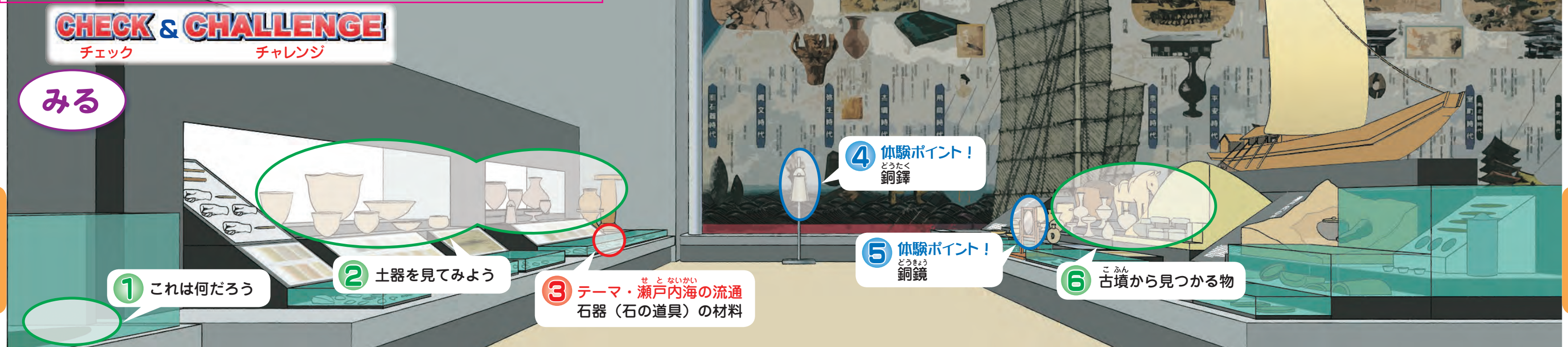
昔の人々の工夫や知恵を
を見つけよう。
今の暮らしと比べてみよう。



もくじ

ホッフ	チェック&チャレンジ	1～8ページ
ステップ	船の模型を比べてみよう	9・10ページ
ジャンプ	まとめ&ふり返り	11・12ページ
	1～8ページの解説とヒント	13・14ページ





みる

しる

1

Q1 この写真は何でしょうか？
説明文を読んで答えよう。



- ア ゾウのキバ イ クジラの骨
ウ 化石になった木 エ シカの角

答え []

Q2 どこで見つかったのでしょうか？

- ア 山の頂上 イ 砂ばく
ウ 地面の下 エ 海の底

答え []

2

一番大きな土器を見つけよう。

Q1 何時代の土器でしょうか？

- ア 縄文時代 イ 弥生時代

答え []

Q2 何に使われた土器でしょうか？

- ア 料理 イ 部屋のかざり
ウ 貯蔵 エ まつり

答え []

3

この石はどこから
運ばれたでしょうか？
パネルを見て答えよう。



- ア 香川県 イ 島根県 ウ 大分県

答え []

4

体験ポイント！
銅鐸

5

体験ポイント！
銅鏡

4

鳴らしてみよう！
どんな音がする？
ア 高い音（チーン）
イ するどい音（カーン）
ウ 低い音（ゴーン）

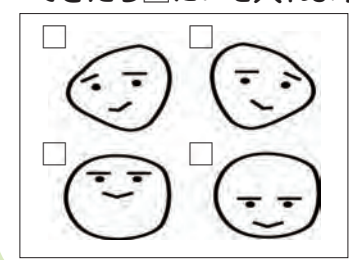
答え []

<想像してみよう>
2000年前の人たちは、この音
をどんな風に感じただろう？



5

銅鏡で、レッツ「へんがお」
自分の顔を写してみよう。
こんな顔はできたかな？
できたら□に✓を入れよう。



ひっくり返すと
顔が写ります。

6

古墳に、豪族の遺体と一緒に
おさめられた物を「副葬品」といいます。
古墳には、色々な副葬品がおさめられました。

Q1 右の写真は何でしょうか？説明を読んで答えよう。

答え []

Q2 「副葬品」の中には、「動物」の形をした埴輪や土器があります。
展示品を見て、見つけた動物に○を付けよう。

[馬 ・ 羊 ・ サル ・ 鳥 ・ 犬 ・ イノシシ]



《土器の発明が、暮らしを変えた！》

土器が発明されると、煮ることができるようになりました。食べものに火が通り殺菌できます。また、煮るとやわらかくなり、食べやすくなりました。食べられる食材も増えました。安全で栄養も多くとれるようになってそれまでより長生きできるようになりました。

さらに、煮ることで、食材の味が出たり、味付けをしたりして、いろんな味を楽しむことができました。きっとメニューも増えたことでしょう。

みつける

気付いた事や印象に残った事、疑問に思った事をメモしよう。

ノートの使い方
ヒント

赤のチャレンジは、瀬戸内海の交通の歴史を知るポイントです。
⇒ 全部クリアすると、9・10ページの「船の歴史」がもっとよく分かります。

ノートの使い方
ヒント

緑のチャレンジは、展示資料やパネルを観察するポイントです。
青のチャレンジは、体験ポイントです。さわって感じて学ぼう！



みる

1 体験ポイント！
古墳に使われた石

2 テーマ・瀬戸内海の流通
運ばれてきた古墳の材料

3 文字と土器

4 こま犬

5 梵鐘(つりがね)

しる

1 石は「竜山石」という石です。
Q1 さわってみよう。どんな手ざわり？
ア ざらざら イ つるつる ウ ごつごつ
答え []

Q2 何に使った石でしょう？
ア 古墳時代の家のカベに積んだ石
イ 古墳の周りに並べた石
ウ 古墳の石棺(ひつぎ) 答え []

2 ①の石の産地をパネルでさがして、右の図から選ぼう。
答え []

3 下の○は右の漢字が書かれた土器です。
文字をよく見て答えよう。
Q1 何「へん」の漢字でしょう？
ア ごんべん (言) イ さかなへん (魚)
ウ かねへん (金) エ うまへん (馬)
答え []

Q2 「つくり」(右)は「尺」と同じ意味です。
Q1の答えと合すると、この文字は、何という漢字でしょうか？ 答え []

4 写真は、左右に並んだ「こま犬」のうち右側のものです。
右と左とでちがう部分を探して、写真に○を付けてみよう。
いくつあるかな。

5 Q1 [?]の部分には何がいますか？
ア とら
イ りゅう
ウ たか
答え []

Q2 この鐘が作られた場所の地名が漢字2文字で○の部分にほられています。
読み取ってみよう。
答え []

仏教の伝来とひろしま

広島県北部の三次市にある寺町廃寺跡の発掘調査をもとに復元しました。平安時代にかかれた物語集に登場する「三谷寺」と考えられています。三谷寺は、地域の豪族が建てた広島県内で最も古い寺の一つで、飛鳥時代の政治の中心地(奈良県)の大寺院と同じデザインでした。大きな古墳がつくられなくなって、各地に寺が建てられました。突然あらわれた、あざやかで大きなこの建物を、仏教を知らなかった人々は、どのよう

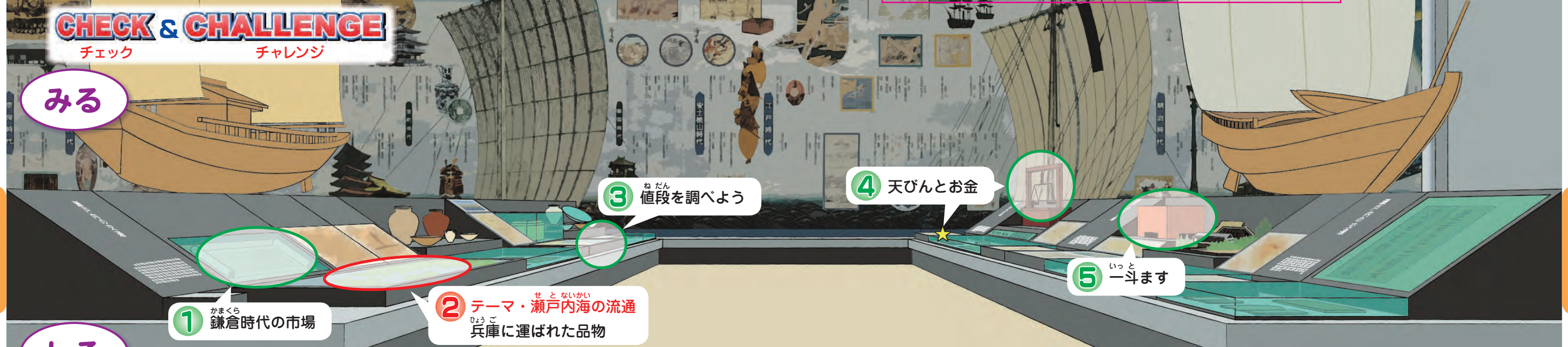
Q 北はどちらだろう？

みつける

気付いた事や印象に残った事、疑問に思った事をメモしよう。

3 ノートの使い方 ヒント 13・14ページには、くわしい説明やチャレンジのヒントがあります。もっとくわしく知りたい時や、ヒントがほしい時には、見てみよう。

4 ノートの使い方 ヒント 博物館は、色々な事を「発見」する所です。「みつける」のらんには、展示室で見つけたあなたの「発見」を書いてください。疑問に思ったことがあれば、それも大切な「発見」です。



みる

1 鎌倉時代の市場

2 テーマ・瀬戸内海の流通
兵庫に運ばれた品物

3 ねだん 値段を調べよう

4 天びんとお金

5 いっと 一斗ます

しる

1 え まきもの 絵巻物をよく観察しよう。

2 も けい 模型を見てみよう。

3 展示している「銅銭」(お金)はどこで作られたものでしょうか？

4 Q1 これはお金をはかる道具です。この天びんで重さを量ったのは、どのお金でしょう？

5 いっと 一斗ますは、1 斗 (18 l) を計量する道具です。

Q1 家から一番近い港を探してみよう。

Q2 その港から何が運ばれていますか？イラスト記号を見て調べよう。

Q1 下のアとイの人はどこにいますか？見つけたらA～Iで答えよう。

ア お金を持って 買い物をする男

イ 魚を運ぶ男

ア [] イ []

市場の中をのぞいてみよう。どんな品物が売られているだろう？

Q2 ★は主人公の「一遍上人」と言う人物です。この絵の中に、もう1か所、同じ人物が、イラストのように登場します。A～Iのどの部分にえがかれていますか？

答え []

Q1 展示している「銅銭」(お金)はどこで作られたものでしょうか？

答え []

Q2 説明を読んで、700年前の紙とおけの値段を調べよう。

・紙3帖 [] 文

・おけ(1つ) [] 文

《マメ知識》

- ・帖は、紙の数え方。和紙の種類によって枚数がちがい、「美濃和紙」は、48枚で1帖。
- ・1文は、展示している古銭1枚。今の50円～100円くらいの価値。

Q1 これはお金をはかる道具です。この天びんで重さを量ったのは、どのお金でしょう？下の写真に○をつけてみよう。

《マメ知識》江戸時代の銀貨にはお金の単位がなく重さを量って使いました。のちに一朱・二朱という価値の決まった銀貨が登場しました。

Q2 ★には右の絵があります。天びんをさがして○をつけよう。

Q1 上のななめの棒は何のためにあるのでしょうか？

ア 変形を防ぐための「つつかえ」

イ 持ち運ぶ時の「とって」

ウ 上に重ねて積むときの「ささえ」

答え []

Q2 このますは、明治時代に使われなくなりました。その事を示す文字が写真の○部分に「焼き印」がおされています。その文字を読み取って、右のわくに書いてみよう。

気づいた事や印象に残った事、疑問に思った事をメモしよう。



みる

1 写真は塩の流通を示す古文書で、「竹原塩売買仕切状」という資料です。塩の名産地の竹原から、どこを通過して信州（長野県）に運ばれたのでしょうか？写真の○の印鑑に手がかりがあります。

Q1 ○の印鑑は、右のような図柄です。図の●に書かれた字を下の〔 〕から選んで○に書いてみよう。

① ○ ② ○ ③ ○ ④ ○ ⑤ ○

〔 魚 川 越 鳥 糸 後 〕

Q2 Q1 は今の何県でしょうか。

ア 新潟県
イ 富山県
ウ 福井県

答え []

2 江戸時代の終わりのころ、荷物や人を運ぶ料金表です。メニューは次の3つです。

人足 (20kgまでの荷物を運ぶ)	本馬 (重い荷物を運ぶ馬)	軽尻馬 (人と軽い荷物を運ぶ)
-------------------	---------------	-----------------

広島までの料金は写真の□の部分です。それぞれの料金を調べてみよう。
(※ヒント： 壹 ⇒ 一, 拾 ⇒ 十)

人足 (文)
本馬 (文)
軽尻馬 (文)

《マメ知識》
江戸時代、そば 1 杯 16～20 文ほど。
運賃は、そば何杯分か考えてみよう。

3 つぎのア～ウの文が正しければ () に○を、間ちがいなら () に×を書いてみよう。

ア () 建物にはどれもかわらがある。
イ () 荷物は馬だけで運んでいて、人は荷物を運んでない。
ウ () カゴに乗っている人物は、大名（お殿さま）ではない。

しる

4 写真は、地租改正のための作業の様子をえがいた絵馬です。左と右の○ではどんな作業をしていますか？下から選ぼう。

左 () 右 ()

ア 田畑の数（枚数）を数えている。
イ そろばんで計算をしている。
ウ 土地の広さを測っている
エ 相談をしている。

5 **Q1** 何を作る作業小屋でしょう？

答え []

Q2 建物の中にいる人は、何をしているのでしょうか。

ア 火を燃やしている。
イ できた品物をまとめている。
ウ 小屋のそうじをしている。

答え []

6 80年前の子どもの遊び道具です。遊んだことのあるものを書きだそう。

みつける

気付いた事や印象に残った事、疑問に思った事をメモしよう。

船から分かる時代の移り変わり

表を完成させて、船の移り変わりを確かめよう。
それぞれ展示している船の模型の近くにある解説パネルを見よう。

みる

しる

運んだ物	石器の材料	地域の特産品
活動のはん囲		
船室の屋根の様子	×	
オールの数	() 本	およそ () 本
帆の様子	×	
模型の長さ・はば	長さ80cm・はば8.5cm	長さ 2 m75cm・はば18cm
実物の長さ・はば	() m・() cm	() m・() m
(関連するページ)	1 ページ	3・4・5 ページ

平安時代～鎌倉時代の「貨客両用船」と言う、貨(荷物)と客(人)を乗せた船です。
下の部分は丸木舟と同じになっています。



縄文時代の丸木舟です。
太い木の幹をくりぬいて作っているよ。



年表を見ると、それぞれの船が使われていた時代が分かります。

運んだ物	中国との貿易の品	地域の特産品
活動のはん囲		
船室の屋根の様子		
オールの数	およそ () 本	() 本
帆の様子		
模型の長さ・はば	長さ 2 m75cm・はば83cm	長さ 2 m75cm・はば75cm
実物の長さ・はば	() m・() cm	() m・() m
(関連するページ)	4・5 ページ	6・7 ページ

江戸時代～大正時代の弁財船です。
各地の特産品を積んで運びました。
帆の様子を、それまでの船と比べてみよう。



室町時代の遣明船です。
船の下の部分を、それまでの船と比べてみよう。



みつける

4つの船をグループ①～③のように分けました。「赤いわく」と「青いわく」で共通する特ちょうを書いてみよう

	縄文時代	平安時代～鎌倉時代	室町時代	江戸時代～大正時代
グループ①	(例) 船に「帆」がない。	(例) 船に「帆」がある。		
グループ②				
グループ③				

ふりかえり&まとめ

気付いた事や分かった事、
考えた事をまとめよう。



この時代とあの時代は共通しているけど、今とはちがう、という事もあるかもしれないね。

みつける

ちがう所

テーマ1

交易
モノやヒトの移動

《例》

○今の多くの船はエンジンで動くところ。



《例》

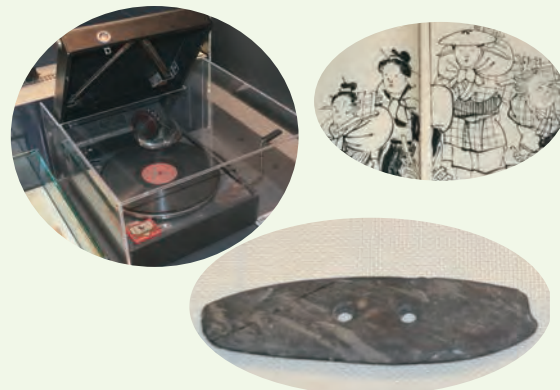
○どの時代も船を使って物を運ぶところ。

みつける

同じような所

テーマ2

暮らしの中の
仕事や道具



テーマ3

人々のいのりや願い



オリジナル・テーマ

オリジナル・テーマ

どの時代にも共通している、とか、この時代とあの時代は似ている、ということもあるかもね。



「ちがっている所」は見つけやすいかもね。
でも、「同じような所」はなかなか見つからないかも。
いつの時代にも言える事・共通する事（似ている事）ってあるのかな。



チャレンジのヒント＆解説

[1・2ページ]

チャレンジ① ナウマンゾウのキバ

縄文時代より前は氷期（氷河期）という寒い気候でした。海から水が蒸発して雪が降りましたが、解けて海にもどる水が少なく、陸に氷のまま残りました（氷河）。海水面は下がり、もっとも寒いときは現在の水深200mくらいまでが陸地でした。人々はナウマンゾウなどを追って狩りをしました。

チャレンジ② 石材

縄文時代のヤジリやおのなど、打ちわって作られた石器の材料（石材）は、割れ口がするどい安山岩や黒曜石が多く使われました。これらの石は、産地が限られており、生活の場所まで運ばれたと考えられます。安山岩は香川県の山、黒曜石は大分県の姫島や島根県の隠岐の島が有名な産地でした。

写真の石は安山岩で、香川県から海をわたって福山に運ばれたと考えられています。

チャレンジ③ 縄文時代と弥生時代

縄文時代の終わりに大陸から伝わった米づくり・農業の道具・土器などがセットで日本列島に広がり、弥生時代が始まりました。縄文土器と弥生土器の形がちがうのはそのためです。弥生時代には、「稲作の神」にいのる「まつり」が始まり、農業用のみぞや王の墓をつくる土木工事が行われました。身分の差や戦争も、弥生時代に始まりました。特殊器台型土器は弥生時代の後半に、岡山県を中心にした吉備地方で作られた「まつり」の土器で、王の墓などから見つかります。古墳時代に古墳に並べられたはにわのルーツと考えられています。

チャレンジ④ 銅鐸

銅鐸は青銅で作られ、大きいものでは高さ1m以上、小さいものでは高さ20cmほどです。大きさによって音も違います。「まつり」の道具と考えられますが、多くのなぞに包まれています。

チャレンジ⑤ 銅鏡

立つ位置によって、顔の形がゆがむのは、凸面鏡（中心がふくらんでいる鏡）だからです（私たちが使う鏡は平らです）。古墳には死者の周りに置かれたようです。「顔を見る」道具ではなく、死者を守る「まよけ」の道具だったと考えられています。

チャレンジ⑥ 古墳の副葬品

古墳などのお墓に死者とともに納められた品物を副葬品（ふくそうひん）といって、死者の生前の地位や富を知る手がかりになります。古墳時代の初めの副葬品は、「まつり」に関係する物が多いですが、次第に武器やよろいなど、武力を示すものが増えてきます。また、古墳時代の後半には、馬に関係する道具が登場します。馬は日本列島にはいなかった動物で、このころ大陸から伝わったと考えられています。

[3・4ページ]

チャレンジ①＆② 石棺の石材

古墳の中で、死者が安置された石棺は、石の板を組み合わせた、くりぬいたりして作られます。そのため、やわらかく加工しやすい石が盛んに使われました。兵庫県が産地の竜山石はその代表で、各地に運ばれたことが分かっています。

チャレンジ③ 文字と土器

土器に書かれた文字「驛」は、今の「駅」と同じ字です。今では鉄道などの「駅」として使いますが、奈良時代などでは、重要な道路の中継地点に置かれた国の役所を指す言葉でした。大切な書類や情報は「驛」を伝いながらリレーで運びました（「駅伝」の名前の由来です）。伝達用の馬が置かれており、駅家・駅屋と書いて「うまや」とも読みます。

奈良時代には、漢字は、役所や寺院など限られた場所で使われました。遺跡からもすみで文字を書いた土器や、すずりの破へんが出土します。

かな文字の登場は平安時代と言われています。

チャレンジ④ 狛犬

狛犬は神社に置かれることが多いですが、元々は仏教と関係のある像です。犬ではなく想像上の動物です。正確には、角が生えているのが狛犬（左）で、写真の像（右）は獅子（モデルはライオン）です。口を開いているのが「あ形」、閉じているのが「うん形」で、セットで置かれます。2人の息がぴったり合っている様子を「あうんの呼吸」と言いますが、その由来となりました。金剛力士像などの仏像でも見られます。

チャレンジ⑤ 梵鐘（釣鐘）

つるす部分は「竜頭」と呼びます。また、鐘の上の方に「イボ」が多くありますが、これは乳とよんでいます。東大寺の大仏の頭の形に似てますね（同じ意味があるとされています）。頭の形だけでなく、鐘の形を大仏の顔に見立てて、鐘の音を「仏様の声」とする説もあります。

ところで、鐘を注意深く見ると、全体を三等分するように横に2本の細い線がめぐっています。これは、鐘を作る時に、熱でとかした銅を流し込んだ型のあとで、「鑄線」と呼ばれています。この線は東大寺や鎌倉の大仏など、同じ方法で作った仏像にも見られることがあります。

ちなみに、「りゅうず」と言う言葉は、アナログ（針式）のうで時計の針を調節するツマミを指す言葉として、現在でも使われています。

[5・6ページ]

チャレンジ① 一遍上人絵伝

一遍という鎌倉時代の有名なお坊さんの物語をえがいた絵巻物のうち、今の岡山県備前市にあった「福岡の市」を訪れた時の様子をえがいた場面です。当時の市場の様子が分かります。白い布を買おうとたばねたお金を持つ男の人や、品物売る女性の姿など、にぎわう様子が伝わってきます。

また、同じ人物が1枚の絵に何度も登場するのは、「時間の流れ」を表現する手法で、絵巻物の右から左へと時間が流れていきます。

チャレンジ② 兵庫に運ばれた品物

パネルは、室町時代の1445年の1年間に各地から兵庫の港に着いた船が運んだ品物を示しています。広島県などの中国山地では製鉄が盛んで、鉄は港から他の地域に運ばれました。瀬戸内海の港や島からは、塩が多く出荷されていますが、この地域では古来から塩作りが盛んでした。かつて「備後」と言えば、塩を指す言葉であったほどです。

チャレンジ③ 中国から来た銅銭と物価

鎌倉時代や室町時代は、日本で独自のお金（貨へい）は作られず、中国の銅銭を輸入して、日本のお金として使っていました。

物の値段も記録に残っており、紙は高かったことが分かります。大工さんの1日の給料は100文ほどでした。当時の物の値段を調べると、現代とはちがう「価値」が見えてきます。

チャレンジ④ 天びん・福山城下商家の図

江戸時代には、江戸（今の東京）を中心に東日本では金が、大阪を中心とする西日本では銀が主に使われていました。ただし銀貨は、重さを量らないと正しい価値がわかりませんでした。銀貨の価値を知るために、天びんで重さを量る必要があったのです。このような天びんは、城下町などの大きな商家に置かれていました。また、重さの基準となる分銅は、幕府がきびしく管理しました。

チャレンジ⑤ 一斗ます

江戸時代には税は米で納めていました（年貢米）。米は公式のますで計り、すり切り一ぱいが1斗（10升＝100合＝18ℓ≒15kg）でした。正確に量るために形がくずれない工夫がされています。このます4はい分が、たわら1つ分（約60kg）の米と同じです。明治時代になると、長さやかさ、重さを量る新しい基じゅんが作られ、江戸時代の一斗ますは役目を終えました。このため、「廃」と文字がきざまれています。

しかし、今でも、国が買い入れる米の値段は玄米60kgが一つの単位になっています。

[7・8ページ]

チャレンジ① 竹原の特産・塩の「旅」

これは、竹原の塩が信州（今の長野県）で売られていた事を示す資料です。竹原は、江戸時代に塩作りで栄えた町でした。

江戸時代には、大阪から瀬戸内海を通して富山や新潟など日本海側の地方を結んで北前船が運航し、各地から米や特産物が運ばれました。この資料によると、竹原の塩は、越後（新潟県）の糸魚川の商人を通じて、日本海側から内陸の信州に運ばれたようです。

チャレンジ② 広島まで馬に乗ったら…

運賃は、藩（地方の政府）が定めた金額でした。この料金表は、江戸時代の終わりのころ物価が上がったため、料金を値上げした時のものです。

現在、資料と同じ場所（海田－広島、約10キロ）でタクシーを使うと、約3000円だそうです。さて、馬や人夫の料金は安い？ 高い？

チャレンジ③ 宿場と参勤交代

江戸時代の大名は、参勤交代と言って、自分の領地と江戸を行列を作って往復しなければならず、その旅行中にとまる宿が必要でした。そのため、大名の宿・「本陣」が各地に整備されました。

神辺にも東西2か所に本陣がありました。模型は西本陣の様子で、今でも広島県史跡「神辺本陣」として保存されています。また、大名行列の荷物を次の宿まで運ぶのは、宿場の付近に住む農民たちが負担する仕事でした。

「問屋場」は宿場の管理をする事務所です。「本陣」や「問屋場」など公共のし設は「かわらぶき」屋根でしたが、しょ民の多くは、「かやぶき」の屋根の家に暮らしていました。

チャレンジ④ 地租改正絵馬

明治時代になると政府は、それまでの年貢米ではなく、土地の価値に応じてお金で税を納めるように改めました（「地租改正」）。そのため、全国の土地の値段を決定する作業が必要となり、測量が行われました。その結果、政府は土地所有者に土地の面積や値段の証明書（地券）を発行しました。

絵馬の下ガラスケースに地券が展示しています。ちなみに「小田県」は、明治時代の初めに現在の福山市や笠岡市周辺にあった県です。

チャレンジ⑤ 製塩小屋の模型

昭和40年くらいまで、瀬戸内海の沿岸地域には海水から塩を作るための「塩田」があり、模型のような製塩小屋が塩田のとなりがありました。

博物館（ミュージアム）は、

○「資料」（昔の暮らしの道具や記録、美術品など）をあつかう施設です。

1.

集める

2.

保管する

3.

展示する

4.

調べる

5.

学習をサポートする

ふくやま草戸千軒ミュージアムは、どんな博物館だろう？

○ふくやま草戸千軒ミュージアムは、平成元年（1989）に開館した県立の歴史博物館です。

○瀬戸内の歴史をテーマにした通史展示や、鎌倉時代～室町時代に栄えた港町・草戸千軒町遺跡の発掘調査でわかったことを展示しています。

○江戸時代に福山藩で活やくした菅茶山の残した記録等の資料も保管しています。

○草戸千軒町遺跡から出土した資料や菅茶山の資料は、国の重要文化財に指定されました。



てんじ

展示を見学するときは…

① 展示している物やガラスケースをさわらないでね。

② 「立ち入り禁止」の所には入らないでね。

③ 博物館の建物の中では走らないでね。

④ 展示室でのメモはえんぴつを使ってね。消しゴムは使わないでね。

⑤ 大きな声を出したり、ふざけたりしないでね。

⑥ 飲み物は決まった所で飲んでね。食べ物は持ちこまないでね。



くさどっきー

ルールとマナーを守って、
ミュージアムで楽しい見学の
時間を過ごしてね！



せんちゃん

学校名

学年

組

名前

編集・発行



ふくやま草戸千軒ミュージアム
(広島県立歴史博物館)
HIROSHIMA PREFECTURAL MUSEUM OF HISTORY

〒720-0067 広島県福山市西町二丁目4-1 (TEL 084-931-2513 FAX 084-931-2514)

e-mail : rhksoumu@pref.hiroshima.lg.jp

ミュージアムのまなびサポート

「みる・しる・みつける たんけんノート(通史展示室)」の答え

【ホップ】(1～8 ページ)

頁	問い	答え	頁	問い	答え
1 ・ 2	① Q 1	ア	5 ・ 6	① Q 1	ア [B] イ [C]
	Q 2	エ		Q 2	A
	② Q 1	イ		③ Q 1	中国
	Q 2	エ		Q 2	紙 100 文, おけ 5 文
	③	ア		④ Q 1	安政丁銀, 安政豆板銀
	⑥ Q 1	のこぎり		⑤ Q 1	ア
3 ・ 4	Q 2	馬・鳥	7 ・ 8	Q 2	廃 (廢)
	① Q 1	(省略)		① Q 1	越後糸魚川
	Q 2	ウ		Q 2	ア
	②	イ		②	人足 50 文, 本馬 101 文 軽尻馬 66 文
	③ Q 1	エ		③	ア (×) イ (×) ウ (○)
	Q 2	駅		④	左 (ウ), 右 (イ)
	⑤ Q 1	イ		⑤ Q 1	塩
	Q 2	三原		Q 2	イ

【ステップ】(9・10 ページ)

	丸木舟 (オレンジ)	貨客両用船 (黄)	遣明船 (緑)	弁財船 (ピンク)
活動のはん囲	川・湖 おだやかな海	瀬戸内海など	東シナ海, 瀬戸 内海など	日本海, 瀬戸内 海, 太平洋
船室の屋根の様子	なし	板材	檜皮葺	板材
オールの数	2	12	20	なし
帆 (ほ) の様子	なし	蓆 (むしろ)	蓆 (むしろ)	木綿
実物の長さ・はば	8 m・85 cm	27.5m・1.8m	27.5m・8.3 cm	27.5m・7.5m

(みつける) 省略

【ジャンプ】 省略